

令和元年度に発生した都内公立学校における体罰の実態把握について（概要版）

調査について

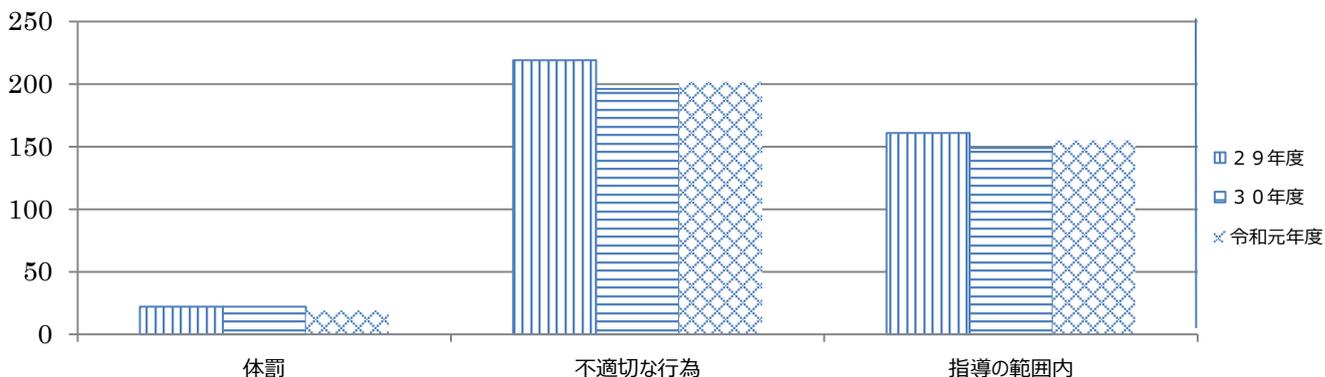
- 趣旨 体罰の根絶に向けた取組を行うため、都内公立学校における実態を的確に把握する。
- 対象 区市町村立及び都立学校全2,155校の校長、副校長、教職員、児童・生徒全てを対象に調査を行った。
- 内容 令和元年度に発生した体罰、不適切な指導、暴言等及び行き過ぎた指導（以下「体罰等」という。）
又はその疑いのある事案について調査を行った。
- 方法 教職員・・・校長による聞き取り調査 児童・生徒・・・質問紙調査及び聞き取り調査
- 備考 この調査以外で判明し、報告があった令和元年度に発生した体罰等事案も含めている。

1 体罰等の行為者数等について

| | 29年度 | 30年度 | 令和元年度 | 前年度差 |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------|
| 学校設置数 | 2,161校 | 2,158校 | 2,155校 | ▲3校 |
| 本調査への報告のあった学校数 | 299校 (13.8%) | 294校 (13.6%) | 308校 (14.3%) | 14校 |

| 態様別 | 29年度 | 30年度 | 令和元年度 | 前年度差 |
|------------|-----------------|-----------------|-----------------|------|
| (1) 体罰 | 22人 (5.5%) | 23人 (6.2%) | 19人 (5.1%) | ▲4人 |
| (2) 不適切な行為 | 219人 (54.5%) | 197人 (53.4%) | 201人 (53.6%) | 4人 |
| (3) 指導の範囲内 | 161人 (40.1%) | 149人 (40.4%) | 155人 (41.3%) | 6人 |
| 計 | 402人 | 369人 | 375人 | 6人 |

(人) 体罰等の態様別行為者数の推移について（過去3年間）



2 体罰の内容について

(※) 平成25年度に作成した「体罰関連行為のガイドライン」で示された体罰分類基準に基づく

| | 29年度 | 30年度 | 令和元年度 | 前年度差 | |
|------|------------------------|------|-------|------|-----|
| 行為者別 | 教職員 | 21人 | 23人 | 19人 | ▲4人 |
| | 外部指導員等 | 1人 | - | - | - |
| | 卒業生・上級生等 | - | - | - | - |
| 場面別 | 授業等の教育活動中 | 16人 | 17人 | 14人 | ▲3人 |
| | 部活動中 | 6人 | 6人 | 5人 | ▲1人 |
| 場所別 | 教室・職員室 | 8人 | 9人 | 5人 | ▲4人 |
| | 校庭・体育館 | 6人 | 6人 | 6人 | - |
| | 生徒指導室・廊下等 | 1人 | 5人 | 2人 | ▲3人 |
| | その他（校外部活動を含む。） | 7人 | 3人 | 6人 | 3人 |
| 体罰者別 | 教職員から体罰を受けた児童・生徒数 | 23人 | 31人 | 26人 | ▲5人 |
| | 外部指導員等から体罰を受けた児童・生徒数 | 1人 | - | - | - |
| | 卒業生・上級生等から体罰を受けた児童・生徒数 | - | - | - | - |
| | 体罰を受けた児童・生徒数 計 | 24人 | 31人 | 26人 | ▲5人 |

| | | 29年度 | 30年度 | 令和元年度 | 前年度差 |
|-----|----------------------|------|------|-------|------|
| 傷害別 | あざ・内出血等 | - | 4人 | 1人 | ▲3人 |
| | 鼻血・口内出血 | 1人 | - | - | - |
| | 擦過傷・切り傷 | - | - | 2人 | 2人 |
| | 骨折 | - | - | - | - |
| | 捻挫 | - | - | - | - |
| | 火傷 | - | - | - | - |
| | その他 | 2人 | 1人 | - | ▲1人 |
| | 児童・生徒に傷害を負わせた行為者数 計 | 3人 | 5人 | 3人 | ▲2人 |
| 原因別 | 態度が悪い | 1人 | 9人 | 6人 | ▲3人 |
| | 指示に従わない | 8人 | 7人 | 7人 | - |
| | 技能・知識が求める水準に達しない | 3人 | 2人 | - | ▲2人 |
| | 意欲が求める水準に達しない | 2人 | 2人 | 3人 | 1人 |
| | 問題行動を止めるため | 2人 | 2人 | 1人 | ▲1人 |
| | その他 | 6人 | 1人 | 2人 | 1人 |
| 認識別 | 感情的になってしまった | 10人 | 12人 | 13人 | 1人 |
| | 言葉でくり返し言っても伝えられなかった | 7人 | 5人 | 1人 | ▲4人 |
| | 体罰と思っていなかった | 5人 | 4人 | 5人 | 1人 |
| | 人間関係ができていたので許されると思った | - | 1人 | - | ▲1人 |
| | 体罰を行う以外考えられなかった | - | - | - | - |
| | 高い成績、成果の期待に応えようと思った | - | 1人 | - | ▲1人 |

令和元年度の状況

- 体罰を行った者は前年度より減少し、本調査を開始した平成24年度（182人）との比較では、約9分の1に減少した。その一方で、体罰には至らない不適切な行為は、前年度と比較して増加しているが、体罰及び不適切な行為を行った者の合計は、前年度と比較して横ばいである。（別冊詳細資料2頁下表参照）
- 体罰の程度が著しい事案は、前年度と比較して減少した。しかし、悪質・危険な行為を行った事案は、依然として根絶に至っていない。（別冊詳細資料9頁参照）

体罰等の根絶に向けた今後の主な取組

- 体罰や不適切な行為の根絶に向けた校内研修等を全公立学校で実施
- 体罰等を含むサービス事故の未然防止に向け、教職員のサービスに関するガイドライン、ふくむニュースレター等を、サービス事故防止研修等あらゆる機会を捉えて活用
- 全公立学校が体罰根絶の宣言を行い、ホームページ等で公表
- 部活動の教育的意義や体罰防止等に関するガイドラインの活用
- 新規採用教員に向けたサービス事故の未然防止に係る資料の公開
- 体罰等により懲戒処分を受けた者に対し、再発防止の観点から、アンガーマネジメント研修等を実施